

教育目標: ○元氣な子 ○やりとげる子 ○考える子 ○思いやりのある子

目指す学校像: 保護者や地域から信頼される学校

目指す児童・生徒像: 子どもたちが主体的に学び活動する学校

目指す教師像: 教職員が協働して教育活動を推進していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
豊かに表現する力を育てる 教育の充実	自分の力で考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。	○情報活用能力を育成するための活動を充実させる。 ○豊かな表現力と実践できる力を育成する。 ○読書体験を一層充実させる。 ○新学習指導要領の全面实施に向けた準備をする。	○新聞を活用した学習と新聞づくりを各教科・領域で行い、進んで情報を収集・活用・発信する力を育てる。特に、全学年で月1回のNIEタイムを実施し、家庭とも連携した取組を進める。 ○NIEタイムを中心に新聞記事を読み、自分の考えを書く活動を月1回以上行う。 ○図書司書や保護者・地域と連携した読書指導を推進する。 ○校内研究で新学習指導要領についての理解を深め、新学習指導要領に対応した指導を計画的に行う。	4	○	4	○	今年度から朝学習の時間に新聞を活用した「NIEタイム」を設定し、各学年の実態に応じた学習を行っている。新聞に親しむことで、児童が情報を活用していく能力が少しずつ育ってきている。	NIEタイムが現在は月に1回の設定なので、子どもたちに浸透していない。今後は、週に1回の設定等、回数を増やしてNIEタイムを子どもたちに定着させていく。
		○基礎学力の確実な定着を図る。 ○学習や生活の様子を発信し、家庭との共通理解を推進する。	○東京ベーシックドリルを活用し、反復学習を習慣化し未習熟事項を残さない。 ○板書をノート指導に反映させ、「わかる授業」を構築する。 ○学習成果物には赤ペンを入れ、児童の努力と課題に適切な評価を丁寧に伝え、達成感を体験させ、学ぶ意欲を育てる。 ○児童のつくる新聞や学級通信等で学習や生活状況を積極的に発信し、家庭との連携を強化する。 ○コンピュータや電子黒板、図書室の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して、学ぶ楽しさと学び方を指導する。	4	○	4	○	87%の児童が「思う」「ほぼ思う」に回答している。また、89%の保護者も同様に回答していることから、学力の定着が図られていると言える。学習規律等を示した「五小スタンダード」の定着、学校図書館の利用、地域教材の活用も要因である。	学力の定着が学校の指導だけでなく、家庭での協力も大きいことを自覚し、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善の努めていくことが必要。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。	○自尊感情の向上を図る。	○互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。 ○道徳教育は学校教育全体を通して継続して取り組む。 ○「道徳科の記録」は教室廊下側上部平面に掲示する。 ○「国分寺市立第五小学校いじめ防止等のための基本方針」に基づいた教育活動を徹底し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を実践する。	4	○	4	○	91%児童が「思う」「ほぼ思う」に回答している。長年にわたる道徳教育の研究に取り組んできた成果とも言える。	全国学力・学習状況調査の児童質問紙でも、自尊感情の高さが見られた。今後も道徳教育の充実を図っていく。
		○学級への帰属意識を高める。	○挨拶運動「モーニングスマイル」の充実発展を図る。保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いと挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。 ○学校の様々な教育活動を通じて地域の人々などと触れ合う学習を計画して多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる	4	○	4	○	89%の児童が「思う」「ほぼ思う」に回答している。(昨年度は87%)モーニングスマイル運動が定着していると言える。	校内での挨拶が校外で活かされていない。教師が率先して挨拶を行ったり、挨拶振り返りのチェックシートを使用することも検討し、子どもたちが挨拶の振り返りができるようにしていく。
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。	○学校は積極的に情報発信する。 ○保護者・地域からの情報を生かした学習を開発する。	○ブログや学校連絡メールを活用し、積極的に情報を発信する。 ○令和2年度からのコミュニティ・スクール実施を目指し、学校運営協議会等の意見を生かして、地域の期待に応える地域との連携を図った教育活動の発展的継続を推進する。 ○児童が、地域の活動に積極的に参加できるよう地域・保護者に対しても協力を求め、双方向の情報の提供を行う。教員も地域行事に参加し、「地域の一員」としての自覚をもつ。	2	○	4	○	今後も、五小ブログや、一斉メール等での積極的な発信を行うとともに、コミュニティスクール実施も見据え、児童だけでなく教員も地域の行事に参加できるようにしていく。	五小ブログを地域の方々にもっと広めていく。また、地域の回覧板も活用し、学校の情報発信を積極的に行っていく。
		○地域・保護者と協力して防災に対する組織的な対応を構築する。	○内藤・日吉地域連合防災会と協力して、学校及び地域の防災意識の高揚を図るとともに、防災に対する組織的な対応力を育成する。 ○教職員一人一人が危機意識をもち、小さな課題を見逃さず事無く報告・連絡・相談を行い、保護者・関係諸機関と連携した組織的かつ迅速・的確な初期対応を行う。	4	○	4	○	89%の児童が「思う」「ほぼ思う」に回答している。サマースクールにおける防災プログラムの活動や、ふだんから「い・か・の・お・す・し」の指導、徹底を行ってきた成果である。	また、一斉メールも「地域の方々」のグループをつくり、不審情報等共有できるようにしていく。